

海藻おしば協会主催：海藻観察 館山 2026年3月7日（土）

場所：東京海洋大学館山（坂田）ステーション
講師：田中次郎副会長（東京海洋大学名誉教授）
天気：晴れ
潮汐：干潮時間：13時 潮位（41cm）
参加者：21人



【スケジュール】
9時30分～座学（研修室）
10時時頃～磯観察 50種類観察目標！
昼休憩 ミュージシャンJRO ライブ
13時15分～
海藻押し葉標本作り・採集海藻同定
15時30分 質問
16時 解散



【磯観察前の講義 田中先生】

潮汐について。日本海側と太平洋側の干満の差。海藻の生育場所：飛沫体（潮上帯）・潮間帯・潮下帯（斬深帯）。海藻（seaweed）と海草（seaglass）の違いなど講義を受け、漂着海藻・磯での海藻観察を行った。

【本日の目標50種】緑藻5～・褐藻10～・紅藻25～

海藻に着目した海藻観察！！みんなで50種を確認しよう！という目的をもって海に出かけた。

観察エリアの説明を受け足元の漂着海藻からスタート。沢山の種類を見よう！という目的があり細かく観察。

「何度も聞いてもよい！」という状況で、これはなんですか？と質問にその都度田中先生からの解説があった。富士山の見える絶景の磯で景色を眺めたり、参加者同士で教えあいながら交流し、無理の無い範囲で観察を楽しんだ。

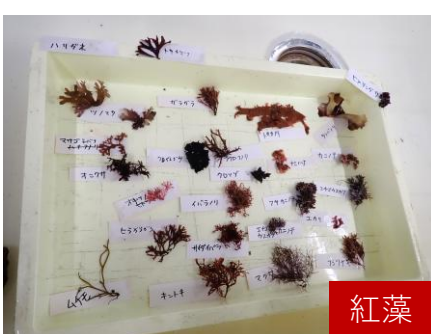
「ヤツマタモク」の気胞の中の髓糸（ずいし）の確認もできた。採集した海藻は、それぞれのグループに分け図鑑を見たり田中先生に質問したり同定を行った。



ヤツマヤモク髓糸



緑藻



紅藻



褐藻

【観察記録】 50種類以上観察

緑藻：ミル・ナガミル・クロミル・ボウアオノリ・ヒラアオノリ・ミドリシオグサ・ヤブレグサ・アナアオサ・フトジュズモ

褐藻：フクロノリ・ネバリモ・カゴメノリ・サナダグサ・ノコギリモク・トゲモク・ウミトラノオ・ヒジキ・ハバノリ・カヤモノリ・イシゲ・イワヒゲ・イロロ・ウミウチワ・シワノカワ・ヤツマタモク・イソモク・タマハハキモク・ムチモ・コブクロモク・シワヤハズ

紅藻：ユカリ・サクラノリ・マクサ・マルバアマノリ・ケイギス・コメノリ・カニノテ・ワツナギソウ・オニクサ・フクロフノリ・ヒトツマツ・コブソゾ・フシツナギ・ヒラガラガラ・ガラガラ・ハナフノリ・ミツデソゾ・ウシケノリ・カモガシラノリ・カイノリ・カワライシモ・ピリヒバ・イバラノリ・サイダイバラ・ヒメテングサ・カギイバラノリ・タンバノリ・ホソバナミノハナ・オオブサ・イシゴロモ・ヒラムカデ・キヌイトグサ・トサカノリ・キントキ・オキツノリ・クロイトグサ・ツノマタ



【ミュージシャンJIRO 生ライブ】

昼休憩の時間は、ウクレレを持った田中次郎先生の「海藻の歌」の生ライブがあり、歌詞カードをもって一緒に歌う参加者もいた。今後、子どもたちのワークショップの振り返りの時間に参加者と一緒に歌うのも面白いのではないかと意見もあった。

【海藻押し葉標本を作ろう】

海藻押し葉標本の作り方についてのポイント

・採集日・採集場所・採集者・良い素材を選ぶ ・丁寧に見栄えよく作る。価値のある学術的標本を作るポイントを押さえ、採集した海藻を潮抜きをして海藻押し葉標本作りを行った。初めての方も丁寧に広げ見栄えの良い海藻押し葉標本を作っていた。作った標本は、各自自宅に持ち帰り、自分で重石をのせ吸い取り紙を交換し乾燥させ完成できるように説明。乾燥機を使用する場合についても知る事が出来た。



【まとめの時間】

ワカメについて標本を見ながら解説。海藻の生長について、海藻の役割、ブルーカーボンについての話、田中先生の経験上の話など盛りだくさんの内容であった。海を知る事・海藻を知る事・伝える事の大切さ・学ぶ面白さを教えて頂いた。

【観察会・標本を作ろう！無事終了】

初の館山海藻観察会は、東京海洋大学水圏科学フィールド坂田（ばんだ）ステーションで実施。田中次郎副会長と21人の参加者で「海藻観察&海藻押し葉標本作り」を楽しんだ。教室には、顕微鏡観察が出来るようになっているなど、参加者は、自由に標本を作ったり、顕微鏡での珪藻観察や、クロイトグサなど小さな海藻観察ができとても恵まれた環境で21人のメンバーが学べた。前日の勝浦との違いも含めとても有意義な工程であった。宿泊施設もあるため、日帰り参加・宿泊参加と対応できケガもなく無事終わってホッとしている。沢山の人は参加していただきたいが、今回の人数くらいがゆとりをもって施設を利用できる最大人数であったと考える。

(記録：高山優美)

【東京海洋大学にて・・・番外編？】

3月6日（金）勝浦での海藻観察会終了後、館山に移動し東京海洋大学の宿泊施設を使用させてもらった。早めに到着していた田中先生と合流し、施設の食堂で夕食・懇親会になった。



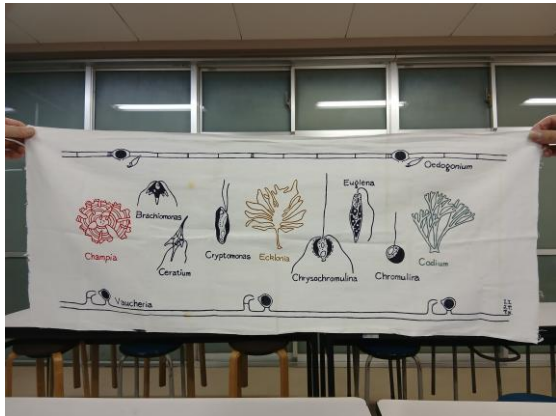
海洋大生の研究話なども聞きました。田中先生、おそばがノビノビです



観音崎博物館の海藻Tシャツを真似して作ってしまいました。ご了承頂く(笑)



ヒジキのお土産についていたシール。ヒジキは緑じゃありません。褐藻です(笑)



田中先生が25年前？に作った手ぬぐい。あれ？一カ所なんで線がないんですか？という突っ込みに。あれ???



出版した「てんぐさ」の絵本より高い？手ぬぐい。さて何匹生き物がかくれているでしょう？



こんなところにフトジュツモ？驚きました



かれこれ20分経過、奥の磯までたどり着くのか？



無事奥の磯まで到着いろいろな海藻を観察



♪ミルはキムチに混ぜるんだこれがおいしさのもと～♪



霧吹きより広げるのにはこっちが便利（便利グッズ紹介）



これなんですか？顕微鏡で見てみよう